

マレーシアの家畜ふん尿処理状況

(株)岡田製作所 関田 和三郎



マレーシアの伝統建築が残るマレッカ市街



低床鶏舎の内部

マレーシアは、マレー半島とボルネオ島の一部サバ、サラワクから成り立ち、人口約2,000万人の多民族国家である。経済開発が進んだ半島部に人口の85%が住んでいる。

今回紹介する発来農業有限公司の養鶏場は(従業員230名)、マラッカ市街より南東の方向へ車で20分程走ったTEHEL BEMBANという町にあり、農場は4カ所(写真)に分散している。

飼育羽数は211万羽(2003/3月現在)で、マレーシア国内での飼養規模としては最大。1996年6月からマレーシアで最初のウインドレス鶏舎(写真)での飼育開始。



選卵選別機



ウインドレス鶏舎

#### 鶏糞処理

発来農業公司では、従来、鶏糞処理は、生(水分75~85%)を手作業でビニール袋に詰め販売していた。

しかし、エンドユーザーより、生鶏糞の発酵で再三にわたり作物の生育障害に関する苦情が出ていた。このことから、林社長は日本の鶏糞処理方式に関心をもち、1995年から発酵機(写真)、移動台車、袋詰め装置を導入、発酵鶏糞として遠距離へも販売できる体制を整えた。また、悪臭問題の解消として国産の脱臭装置も設置した。(写真)

現在までの日本からの導入機械の実績は以下のとおり。

発酵機械 7台 (D1000-6)

移動台車 7台 (同上)

袋詰め装置 2台 (301型)



自社飼料工場



袋詰め装置  
(遠距離運搬販売が可能となった)



脱臭装置  
(微生物脱臭装置、上部より散水装置完備)



発酵棟の内部  
(間口40m、長さ80mの建物の中で6槽の発酵槽、  
発酵機はD1000?6型、1台で3槽を自動攪拌)